

令和元年5月28日現在

機関番号：64401

研究種目：若手研究(A)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H05380

研究課題名(和文)北パキスタン諸言語の記述言語学的研究

研究課題名(英文)Descriptive Linguistics for Northern Pakistan Languages

研究代表者

吉岡 乾 (Yoshioka, Noboru)

国立民族学博物館・人類基礎理論研究部・助教

研究者番号：20725345

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題では、ドマーキ語、ブルシャスキー語、シナー語に加え、コワール語、カラーシャ語、カティ語、カシミリー語に関する現地調査を行い、それぞれの語彙収集、文法調査、談話の収録などを行い、一次データを増やした。中心的な対象であったドマーキ語に関しては、小さなコミュニティで、あまり協力的でなくなっていく協力者を最初に掴んでしまったため、想定以上に調査が滞った。文法スケッチ(簡単な文法まとめ)を描くにもまだ調べ足りていない部分があり、文法全体の記述にまで踏み出せていない。物語数篇の文字起こし・分析が済んでいるものがあるので、今後、順次公開していく予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

消滅の危機に瀕した言語であるドマーキ語や、それに隣接して話されている系統的孤立語であるブルシャスキー語などといった、研究の進んでいないパキスタン北部の少数言語に関して、フィールド調査でデータを記録することは、言語保存・多様性保全の側面や、歴史言語学・言語類型論といった分野にとっても、大切なことである。今はまだ話者集団が当該言語の維持や復興に力を入れていなくても、将来的にそういう願望が生じるかも知れない。その際に、参考にできる言語の情報・データが残されているか否かは、初めの一步として大きな差となる。一方で、これまでの研究が少ない言語の一次資料を残すことは、応用的な研究に資するものである。

研究成果の概要(英文)：In this research project, I conducted field research on the Khowar, Kalasha, Kati, and Kasimiri languages in addition to Domaaki, Burushaski, and Shina. For each language I collected and recorded primary data namely vocabulary, grammatical items, and narratives by the surveys.

For Domaaki, the main target language of this research, which is spoken in small community, I caught up a speaker as my first informant but he has been becoming less cooperative. Thus the research has slowed down more than expected. There are some grammatical issues that have not been examined yet, and so the description of the whole grammar has not been advanced. Some of the narratives have already been transcribed and analyzed, so I plan to release them one by one soon.

研究分野：記述言語学

キーワード：ドマーキ語 ブルシャスキー語 カティ語 インド・ヨーロッパ語族 インド語派 ヌーリスタン語派

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

北パキスタン(ギルギット=バルティスタン自治州(以下、GB州)ならびに、ハイバル=パフトゥーンフワー州(KhP州))は、地域的に見れば中央アジア、南アジア、東アジアの接点であり、地勢的に見てもカラコラム山脈・ヒマラヤ山脈・ヒンドゥークシ山脈という峻嶮な山々が合流する地点であるということもあって、様々な系統の様々な言語が密集している地域である。インド・ヨーロッパ語族インド・イラン語派の、中央インド語系に属するであろうドマーキ語、グジュリー語、北西インド語系に属するシナー語、コワール語、カラーシャ語、カシミーリー語など、ヌーリスタン語系に属するカティ語、イラン語系に属するワヒー語、更にはシナ・チベット語族チベット語系のバルティ語や、系統的孤立語のブルシャスキー語などが話されている。

近年の言語多様性の危機が問題視されている中で、この地域の言語は研究者も少なければ、記述・記録も遅れている。一方で、特にドマーキ語などは、消滅の危機に直面しており、筆者の知る限りでは、ドマーキ語を第一言語として日用している話者は数十人しかいない。この言語はドマ人の民族語であり、すっかりブルシャスキー語話者に包囲される形で、GB州フンザ県のモミナバード村と、ナゲル県の大ナゲル村ベディシャル集落のみで用いられている。筆者の調査した限りでは、それ以外の地域にもドマ人は居住しているが、既にドマーキ語は放棄してしまっているようだ。そのドマーキ語の現存する、ほとんど唯一にして最大の研究が、80年も前のものであるという事実も見逃せない。

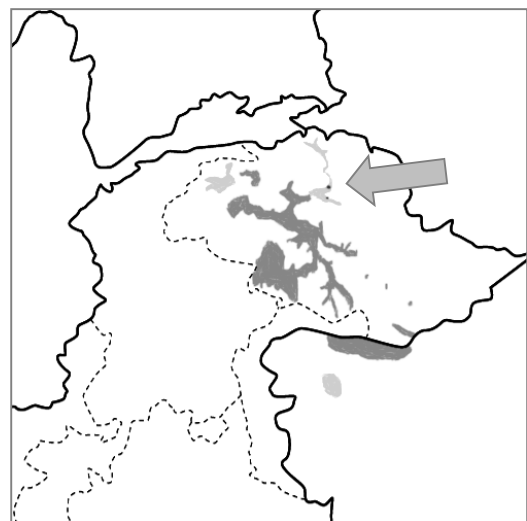
筆者はこれまでに、ブルシャスキー語を中心としつつ、上述した言語の中のドマーキ語、シナー語、コワール語、カティ語などを調査してきている。博士論文では、ブルシャスキー語フンザ・ナゲル方言に関する一通りのリファレンスグラマー(参照文法)を記述した。しかし、この地域の言語は互いに接触を通じて影響し合っており、北パキスタン言語圏とでも呼べそうな、幾つかの共通特徴を有している。ブルシャスキー語を知るには周囲の言語を知る必要があるし、周囲の言語を知るにはブルシャスキー語を知る必要がある、という環境である。それは他の言語をとってみても同じことである。この地域の言語は、同時進行で複数言語を研究をしていくことが最善策だろうと筆者が感じている一方で、研究者が少ないため参考にできる文献もない。そのような経緯で、筆者の調査言語は拡大せざるをえない状況にある。

### 2. 研究の目的

本研究で筆者が明らかにしたいと考えているのは、何よりもまずドマーキ語の言語構造である。言い換えると、研究の目標はドマーキ語のリファレンスグラマーを作ることである。

1. で述べた通り、ドマーキ語は早急に調査をし、記述をする必要がある。モミナバード村で言えば、村落内でドマ人同士でもブルシャスキー語を用いるようになっており、第一声でドマーキ語を用いるのは、一部の中年以上の女性のみである。老年層の一部を除いて彼女らも全てがブルシャスキー語の流暢な話者であり、完全にドマーキ語のみを用いる者は居ない。ベディシャル村落へは三度調査に行ったが、ドマーキ語を話せる男性は2名のみ、女性話者も若干名のみであった。なお、ナゲル谷のこの集落はシーア派なので、男性である筆者が女性から調査をするのはほとんど不可能である。これらの2つの集落間では方言差もあるのだが、ナゲル谷全体が調査環境が悪いので、ドマーキ語の調査はモミナバード村がメインになるだろう。リファレンスグラマーは、最低限モミナバード方言を十分に記述したものとしたい。

その一方で、先にも述べたが、周囲の言語、ドマーキ語の場合は特に、ブルシャスキー語やシナー語などに関する知識も必要となる。地図1は、パキスタン北部にブルシャスキー語(薄色)、シナー語(濃色)、ドマーキ語(矢印の先辺りの黒点)をプロットしたものである。ドマーキ語の周囲はブルシャスキー語が話されており、その南西にある大言語がシナー語である。その為、本研究では、引き続きブルシャスキー語と、シナー語に関する調査も行っていく。ゆくゆくはこれら両言語のリファレンスグラマーの執筆(ブルシャスキー語は博士論文の改訂出版)も視野に入れている。



地図1. 言語分布図

### 3. 研究の方法

この研究の最大の特色は、現地調査へ行って一次資料の渉獵からスタートし、それを基に文法記述をするという点である。現在僅かに居る北パキスタンの言語の研究者のほとんどが、現地調査へは行かずに、数十年前の調査データや二次資料を頼って研究をしているのに対し、筆者は現地へ行き、時には調査対象言語を媒介にしてデータ収集をしているという強みを持っている。

更に、単一の言語を調べるのではなく、複数の言語を同時に調査していくことで、対照研究によって浮き彫りになる点、地域特徴として共通して見られる点などを明確に描き出していくことが可能である。本研究で主な対象としている三言語が全て系統的に異なっているのも、後者の点を知るには絶好のポイントである。

1. で述べた通り、ドマーキ語の文法を明らかにするために、その周辺の言語をも調べ、その周辺の言語の文法を明らかにする為に、更にその周辺の言語をも知る必要がある。残念ながらこの辺りの言語は研究が進んでいないため、必要に応じてフィールド調査の対象言語は増えることとなる。

#### 4. 研究成果

本研究課題では、ドマーキ語、ブルシャスキー語、シナー語に加え、コワール語、カラシヤ語、カティ語、カシミリー語に関する現地調査を行い、それぞれの語彙収集、文法調査、談話の収録などを行い、一次データを増やした。研究が進んでいないこれらの言語に関して、フィールド調査でデータを記録することは、言語保存・多様性保全の側面や、歴史言語学・言語類型論といった分野にとっても、大切なことである。

中心的な対象であったが、話者数の少ないドマーキ語は、小さなコミュニティでのみ話されており、却って協力者を増やしていくという側面があった。誰かから既に協力を得ているということが即座に村中へ知れ渡ってしまうため、新規の協力者を求めても、協力者の先輩に遠慮をしたり、既存の協力者を言い訳にして回避されてしまうためである。一方で、外国人研究者の協力をしているということに利を見出したのか、既存の協力者も新たな協力者を探すのを嫌がる、という悪循環が発生していた。その状況下で、研究者に離れられてしまうという焦りがなくなったためか、協力も積極性を欠き、改善を何度か試みはしたものの、全体を通してドマーキ語の調査は思うほど捗らなかった。ベディシャル集落のドマーキ語は、モミナバード村のものとは方言差が当初の想定以上に大きいようだが、男性話者が1名亡くなり、いよいよ、残すは男性1名のみと数名の女性という状況になって、外来の男性研究者である筆者には調査がほぼできない状況にある。打開策を摸索してはいるが、期間内には研究の進めようがなかった。

多くは言えないが、最終年度に日本語でブルシャスキー語の文法を取りまとめた原稿はあるものの、いまだに出版の時期も是非も不明であり、成果としての公開が当座は見込めない。ドマーキ語に関しては、文法スケッチを描くにもまだ調べ足りていない部分があり、文法全体の記述に踏み出せていない。数篇は、物語の文字起こし・分析が済んでいるものがあるので、今後、順次公開していく予定である。

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計13件)

- 吉岡 乾 . 2019 ( 予 ). 「ブルシャスキー語の名詞修飾表現」. プラシヤント パルデシ・堀江 薫 ( 編 ) 『日本語と世界の言語の名詞修飾表現 ( 仮 )』ひつじ書房 . ページ未定 . 査読あり .  
[Noboru Yoshioka](#). 2019 ( 予 ). “The decay and reconstruction of nominal classes in Srinagar Burushaski”. 国立民族学博物館研究報告 , 44 . ページ未定 . 査読あり .  
[Noboru Yoshioka](#). 2018. “It Rains: South Asia (IE [Aryan, Iranian], Dravidian, Andamanese, and Burushaski)”. *Studies in Asian Geolinguistics*, 8. 48-49. 査読なし .  
( [https://publication.aa-ken.jp/sag8\\_rain\\_2018.pdf](https://publication.aa-ken.jp/sag8_rain_2018.pdf) )  
[Noboru Yoshioka](#). 2018. “Tone/Accent in South Asia (Aryan, Iranian, Nuristani, Dravidian, Andamanese, and Isolates)”. *Studies in Asian Geolinguistics*, 8. 19-20. 査読なし .  
( [https://publication.aa-ken.jp/sag8\\_rain\\_2018.pdf](https://publication.aa-ken.jp/sag8_rain_2018.pdf) )  
[Noboru Yoshioka](#). 2017. “Nominal Echo-Formations in Northern Pakistan”. 国立民族学博物館研究報告 , 41(2) . 109-125 . 査読あり . ( doi/10.15021/00008440 )  
[Noboru Yoshioka](#). 2017. “Means to count nouns in South Asia (Aryan, Iranian, Nuristani, Dravidian, Andamanese, Nihali, and Burushaski)”. *Studies in Asian Geolinguistics*, 6. 19-20. 査読なし .  
( [https://publication.aa-ken.jp/sag6\\_count\\_2017.pdf](https://publication.aa-ken.jp/sag6_count_2017.pdf) )  
[Noboru Yoshioka](#). 2017. “Iron: South Asia (IE (Aryan, Iranian, Nuristani), Dravidian, Andamanese, Nihali, Burushaski)”. *Studies in Asian Geolinguistics*, 5. 23-24. 査読なし .  
( [https://publication.aa-ken.jp/sag5\\_iron\\_2017.pdf](https://publication.aa-ken.jp/sag5_iron_2017.pdf) )  
[Noboru Yoshioka](#). 2017. “Wind: South Asia (IE (Aryan, Iranian, Nuristani), Dravidian, Andamanese, Burushaski)”. *Studies in Asian Geolinguistics*, 4. 22-23. 査読なし .  
( [https://publication.aa-ken.jp/sag4\\_wind\\_2017.pdf](https://publication.aa-ken.jp/sag4_wind_2017.pdf) )  
[Noboru Yoshioka](#). 2016. “Domaaki as a language of northern Pakistan: from a geolinguistic point of view”. *Papers from the Third International Conference on Asian Geolinguistics*. 38-45. 査読なし .  
( [https://publication.aa-ken.jp/papers\\_3IC\\_Aasian\\_geolinguistics\\_2016.pdf](https://publication.aa-ken.jp/papers_3IC_Aasian_geolinguistics_2016.pdf) )  
[Noboru Yoshioka](#). 2016. “Milk: South Asia (IE (Aryan, Iranian, Nuristani), Dravidian, Andamanese, Nihali, Burushaski)”. *Studies in Asian Geolinguistics*, 3. 24-25. 査読なし .  
( [https://publication.aa-ken.jp/sag3\\_milk\\_2016.pdf](https://publication.aa-ken.jp/sag3_milk_2016.pdf) )  
[Noboru Yoshioka](#). 2016. “Rice: South Asia (IE (Indic, Iranian, Nuristani), Dravidian, Andamanese,

Nihali, Burushaski)". *Studies in Asian Geolinguistics*, 2. 19-20. 査読なし .  
( [https://publication.aa-ken.jp/sag2\\_rice\\_2016.pdf](https://publication.aa-ken.jp/sag2_rice_2016.pdf) )  
Noboru Yoshioka. 2016. "Sun: South Asia (IE (Indic, Iranian, Nuristani), Dravidian, Andamanese, Nihali, Burushaski)". *Studies in Asian Geolinguistics*, 1. 22-23. 査読なし .  
( [https://publication.aa-ken.jp/sag1\\_sun\\_2016.pdf](https://publication.aa-ken.jp/sag1_sun_2016.pdf) )  
吉岡乾 . 2015 . 「ブルシャスキー語の動詞語幹と他動性」. パルデシ プラシヤント・桐生和幸・ナロック ハイコ ( 編 ) 『有対動詞の通言語的研究：日本語と諸言語の対照から見えてくるもの』くろしお出版 . 321-334 . 査読あり .

〔学会発表〕(計11件)

Noboru Yoshioka. 2018. "The decay and reconstruction of nominal classes in Srinagar Burushaski". International Congress of Linguists 20.  
吉岡乾 . 2018 . 「ブルシャスキー語の名詞修飾表現」. Prosody and Grammar Festa 2.  
吉岡乾 . 2017 . 「ブルシャスキー語スリナガル方言で再構成された名詞クラス」. 日本言語学会 第 155 回大会 .  
Noboru Yoshioka. 2017. "Echo-formation in Kati as a neighbouring language of Kalasha and Khowar". 33rd South Asian Languages Analysis Roundtable.  
Noboru Yoshioka. 2016. "Using of Urdu numerals in languages of northern Pakistan". 日本南アジア学会 第 29 回全国大会 .  
Noboru Yoshioka. 2016. "Domaaki as a language of northern Pakistan: from a geolinguistic point of view". 3rd International Conference on Asian Geolinguistics.  
Noboru Yoshioka. 2016. "Spatial expressions in Burushaski". 32nd South Asian Languages Analysis Roundtable.  
Noboru Yoshioka. 2015. "Noun Modifying Expressions in Eastern Burushaski". International workshop on Noun Modifying Expressions in South Asian Languages.  
吉岡乾 . 2015 . 「ドマーキ語の言語状況について —消滅の危機に瀕した北パキスタンの印欧語—」. 日本南アジア学会 第 28 回全国大会 .  
吉岡乾 . 2015 . 「ブルシャスキー語の空間参照枠」. 日本言語学会 第 150 回大会 .  
Noboru Yoshioka. 2015. "On the Copulae of Languages in Northern Pakistan". 2nd Kashmir International Conference on Linguistics.

〔図書〕(計1件)

吉岡乾 . 2017 . 『なくなりそうな世界のことば』. 創元社 . 112 ページ .

6 . 研究組織

(1)研究分担者

なし

(2)研究協力者

研究協力者氏名：アリー・アフマド・ジャン、イッサ・カリーム、ラージャー・マフブーブ・アリー・ハーン、ラージャー・ワージド・アリー、ラーザー・ラーザー、マスード・ラフマーン、ヤスィール・アラファト、ワリー・シャー、イナーヤト・ウッラー、バシール・アフマド・グーナー、他多数

ローマ字氏名：Ali Ahmad Jan, Essa Karim, Muhammad Ali, Raja Mahboob Ali Khan, Raja Wajid Ali, Raja Raza, Masood Rahman, Yasir Arafat, Wali Shah, Inayat ul-Lah, Bashir Ahmad Guna, and others

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。